

# 洛友会会報

京都大学工学部電気系教室内  
洛友会  
〒606-8202  
京都市左京区田中大塚町49  
075-701-3164

## 迎春

二〇〇一年一月一日

### 洛友会役員

幹事	幹事	幹事	幹事	幹事	北海道支部長	東北支部長	北陸支部長	九州支部長	四国支部長	中国支部長	中部支部長	関西支部長	東京支部長	副会長	副会長	副会長	会長
松本	吉田	荒木	神戸	木村	池内	大島	中島	岡藤	近藤	池野	大野	田中	川本	宅間	池上	大嶋	近藤
光博	俊彦	磐夫	根根	義則	義寛	恭一	範彦	耕三	浩一	浩彰	千秋	幸雄	幸董	文夫	幸一	文治	文治

## 21世紀を迎え

### 年頭に想う

洛友会会長 近藤文治(昭18年卒)

新年明けましておめでとうございませう。年頭に当たり会員各位並びにご家族御一統様の益々のご健康とご多幸を心からお祈り申し上げます。

さて今年には新しい世紀、21世紀の最初の年であり、年頭に当たり、19世紀における文明進化の跡を振り返り、その恩恵に感謝すると共に、その当然の結果として生じた歪を21世紀において修正し、地球の上に人類の真の繁栄を築く決意を新たにしなければなりません。

周知のように、20世紀における科学技術の発展は目覚ましく、人類が今までに成し遂げた発展の全てに匹敵する発展を、過去100年の



間に達成したと言われています。そのため人間は豊かな物質文明の恩恵に浴し、人類の生存環境は大いに改善され、人口は急増しました。その意味において、19世紀は科学技術の発達に先導され、人間社会が大きな変革を遂げた世紀と言えらると思えます。

しかし一方では、資源の大量消費によって自然破壊が進み、資源の枯渇、地球汚染、地球温暖化など、最近では、人類の幸福どころか生存さえ脅かす諸因子が顕在化し、人類はかつて経験したことのない重大な危機に直面しています。これを解決するには矢張り科学技術の力が必要であり、それに加えて、20世紀とは異なり、21世紀においては、人間の英知ないし倫理観が、科学技術の発達を制御することが必要です。そして科学技術の発達が真の意味において人類の繁栄に役立つことを願う次第です。

日本に限って言えば19世紀は激動に明け暮れた時代でした。明治初期の文明開化の基盤の上に、日

本の近代化が軌道に乗り始めたのが19世紀の始めで、日清戦争で列強の仲間入りを果たした後は、富国強兵・軍国主義の道をひたすら歩み続けました。やがて日露戦争の勝利で自信を得た後は、小石の坂道を下るが如く、一途に太平洋戦争に向かつて突き進んだのでした。その結果は一敗地にまみれ、明治以来築き上げた全てを失いました。国体も神国日本から民主日本と変わり、国民は廃墟の中から立ち上がり、戦後の経済高度成長期を経て、今や世界第2の経済大国として21世紀を迎えました。

また我らの母校京都大学工学部電気工学科は、つい先搬創立百周年を迎えたばかりで、その歴史は正に20世紀100年の歴史に外なりません。そして20世紀の終末には、京都大学を挙げて大学院主体の大学に変貌し、更に21世紀に向けて、京大工学研究科と情報研究科の桂キャンパス移転が決まり、電気系専攻はそのトップを切つて、今年から本格的な移転が始まるなど、今までの歴史にない大きな変革が始まるうとしています。しかし変革こそ躍進のチャンスでもありません。キャンパス移転を契機に、教官各位の益々のご活躍並びに電気系専攻の飛躍的な発展を期待しています。

加えて、国立大学の独立法人化という革命的な変革が迫りつつあります。桂キャンパスの移転とい

い、独立法人化といい、電気系専攻にとつて21世紀の幕開けは正に激動の時代となることは明らかで、この荒波を切り抜けて、科学技術の発展と人材の養成に、活力ある大学として益々発展されることを心から祈る次第です。

次に洛友会の昨年一年間を振り返ってみますと、1月6日には前会長大谷泰之先生が85才で逝去されました。先生は洛友会創設時から洛友会幹事を勤められ、鳥養会長及び松田会長を扶けて、洛友会の基礎固めに大きな寄与をされたのであります。その後松田会長の後を受けて、平成4年6月から洛友会会長として、母校の創立百周年記念事業の準備に専念されたのであります。この頃から腰痛が進むと共に健康も優れず、百周年式典を前に外出困難な状態となられ、辞意を表明、役員会としては止むを得ないとして、平成10年6月会長を辞任されたのであります。その後も健康状態優れず、昨年早々、逝去されました。

先生のご専門の照明の分野における偉大な業績、円満なご人格と人並み外れたお世話好きなど性格を偲びつつ、心からご冥福を祈る次第であります。

新年早々に悲しいご報告を申し上げた失礼をお許しを賜りたいと存じます。しかし悲しいことばかりではなく、洛友会顧問で関西電力及び関西経済界の重鎮として活

躍された芦原義重氏が、昨年3月7日日出たく満99才すなわち「百寿」(お生まれになったときを第1回目の誕生日と勘定すると百回目の誕生日)をお迎えになり、洛友会からささやかなお祝いの品を送らせて頂きました。芦原氏は現在も大変お元気ですが、今後尚一層ご健康にご留意の上、更なる長寿を全うされんことを心からお祈り申し上げます。洛友会としては、中部支部の故本多氏、四国電力元社長渡部氏(100才)に次ぐ3人目の百寿のお祝いでした。

日本人の平均寿命

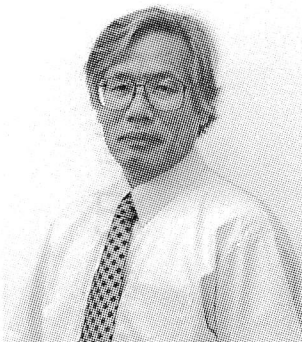
年度	'94	'95	'96	'97	'98	'99
男子	76.57	77.36	77.01	77.19	77.16	77.10
女子	82.98	83.84	83.57	83.82	84.01	83.99
備考	↑ 阪神淡路大震災		↑ ?		↑ 中高年自殺者の増加 インフルエンザの流行	

にある日本人の平均寿命の最近のデータを別表に掲げます。  
表にありますように、平均寿命は毎年上がっているわけではありませんが、日本が一貫して世界一の長寿国であることには変わりありません。しかし何時までも寿命が長くなるとは考えられませんし、それに表の上でも頭打ちの傾向が見受けられます。そうだとすれば人間にとつて百年という年月は矢張り短いものではありません。世紀の変わり目の今年は大変大きな節目の年だと言えます。どうか新しい21世紀が人類や地球にとつて、輝かしい世紀になることを心からお祈りして新年のご挨拶と致します。

教室だより

退官に当って

私は、平成12年3月定年退官しました。昭和42年、助手に採用していただいて、33年になります。工学研究科附属のイオン工学実



験施設は、一九八七年、昭和53年に高木俊宜先生がおつくりになり、私は電子工学教室から、専任助教として就任しました。昭和55年には、本館が完成しました。イオン工学実験施設には、クラスターイオン工学領域(教授、助教、助手の構成)と、昭和61年に、当時初の外人部門、イオン工学的新材料研究領域(教授、助教)が付設されました。その後、平成元年に西館が完成し、床面積二二〇〇平方メートルの現在にいたっています。昭和60年4月に、高岡助教、白井助手の構成で山田研究室をスタートし、昭和63年に、イオン工学実験施設長を拝命し、重責を担うことになりました。平成3年に白井助手は東京農工大学助教に昇任。平成6年には富士通より松尾先生に来ていただきました。本稿は、3月3日の最終講義をもとにまとめました。

イオンビームプロセスと材料

私のイオンビームとの関わりは、昭和45年4月頃、高木先生のもとで始めたイオンメッキの時代にさかのぼります。当時の社会を反映して、無公害コーティングとしてのイオンメッキが注目を浴びた時代でした。その後、世の中は先端技術の時代になり、イオン工学に対する要求も高まり、今日の展開を見ました。最近では情報通信の発展とともに、原子分子のサイ

迎春

二〇〇一年一月一日

京都大学

電気関係教室

教官一同

フジテック株式会社

取締役社長 大谷 謙治

ヤール株式会社

松下電器産業 鐵

日新電機株式会社

代表取締役取締役会長

安井 貞三

ズのプロセスにまで展開しました。

### クラスターイオンビーム

私達は、原子や分子が数千個集まったクラスター(原子集団)からなるイオンビームを作り、これを固体表面に照射して行う、材料プロセス技術の研究を始めました。長い間クラスターイオンビームなどありえるはずがないというのが一般の見方でした。学外には共同研究者もなく、ともに共通するデーターや問題で討論する機会もありませんでした。日本では、比較的静かでしたが、海外からは、厳しい詰問が続きました。

幸い、平成元年に科学技術振興事業団の実験調査費をいただいでガスクラスターイオンビームの研究を始めました。その後、科研費や科学技術振興事業団、通産省、科学技術庁、日本学術振興事業団などから援助をいただき、実験研究を続行することができました。ガスクラスターイオンビームプロセスでは、従来のイオンビームが固体の表面に当たった場合とまったく異なる現象(非線型衝突作用)など、種々の特徴が明らかになり、ナノプロセスに適したものであることがわかりました。いまでは、多くの共同研究者を得て、米国では商務省の先端技術プログラム、わが国では国家産業技術戦略の重要技術開発項目に組み入れられ、

通産省のミレニアムプロジェクトとして実用化研究が始まりました。ガスクラスターイオンビームプロセスでは、特に固体の表面に浅く原子を埋め込む極浅イオン注入、表面を原子レベルの精度で加工するラテラルスパッタ、表面に薄い平坦な膜を形成する薄膜形成に役立つものと思っています。

### 極浅イオン注入プロセス

現在、イオン注入の分野では、次世代超LSIの製作のために、シリコン基板の表面にホウ素やリン原子を注入して表面の数十ナノメートルの限られた極浅い範囲にp型やn型の領域を作る技術の開発が重要な課題の一つになっています。このためには、注入エネルギーを二百エレクトロンボルトぐ

らい下げることが必要になりました。このような低いエネルギーで大量のイオンを取り出す装置の製作は極めて困難です。ところがクラスターイオンを用いると高い電圧で加速しても、低い電圧で行ったと同様の照射作用があることを見つけました。この場合、デカボランというB原子10個からなるクラスターイオンを使用しました。丁度10倍の加速電圧、即ち二キロボルトで注入しても、二百ボルトと同じ注入ができます。イオン注入を京大でおこない、前後の工程は富士通研究所にお願いし、四十ナノメートルゲートのp-MOST

ランジスターを作りました。このデバイスは今でも世界最小で最高の性能を示しています。各国で追試と装置開発が始まりました。ベル研究所、ローレンスリバモア国立研究所、米国のイートン社や、オランダのフィリップス社などでプロセス評価や注入装置の開発が進み、実用直前のけはいが漂っています。米国ではあちらこちらで研究会が行われ、これらの検討が行われています。最近、米国の共同研究グループや、米国のメーカーからの発表が相次ぎました。今は、低エネルギーイオン注入の最先端技術として、一人歩きを始めました。事業団から出している特許も今後大きな国際問題になって行くことになりました。

最近計算機シミュレーションが身近のパソコンで行えるようになりました。おかげで、実験やシミュレーションで、細部にわたる現象が明らかになりました。スパッタ現象や、表面作用の様々な実験では見られない瞬時の現象も追っかけることが出来、結果として実験でしか見ることが出来ない現象を、動的に見せてくれました。これらは、極めて説得力のあるデーターで、新プロセスを十分納得させることが出来ました。もうクラスターの存在やクラスターイオンプロセスを疑う人はいなくなりました。学生達も進んで、海外の国際会議で発表し、研究会に参加

して、立派な論文をのこしてくれました。

### ラテラルスパッタプロセス

クラスターイオン特有のラテラルスパッタ効果も新発見の一つです。これはクラスターイオンに特有の現象で、今までのイオンビームのプロセスでは見られませんでした。イオンビームが基板に垂直にあたった時に、基板原子が横方向にはじき飛ばされる現象です。単原子イオンの場合には余弦則に沿って飛び出します。今までになり、イオンと固体との相互作用がおきていることを示しました。その上、今までのイオン照射の場合と比べて、エッチング率が数十から数百倍も高くなります。これだけではありません、今までの単原子イオンの照射では、照射を続けるに従って表面は段々荒れ、凸凹が激しくなります。クラスターイオンの場合は、逆に、段々平坦になります。この現象もクラスターイオンが通常の単原子イオンの照射作用と、全く異なるものであることを示しています。これこそ、クラスターイオンの多体衝突による非線形プロセスです。このプロセスが、真つ先に実用化され、産業界に入ることになりました。

### 薄膜形成プロセス

酸素などのガスクラスターイオンビームをシリコンなどの基板表

迎春

二〇〇一年一月一日

鐵 S C C

代表取締役社長 松尾 泰

宇宙技術開発 鐵

代表取締役社長 松尾 泰

電子開発学園

理事長 松尾 泰

高周波熱錬 鐵

代表取締役社長 大谷 茂久

鐵 村田製作所

取締役社長 村田 泰隆



面に照射すると、室温で効率の高い酸化作用が見られます。ガスクラスタイオンの低エネルギー照射効果と、高密度輸送効果を利用して、クラスタイオン照射と蒸着を併用するクラスタイオンアシスト蒸着法を研究しました。通産省の地域コンソーシアムプロジェクトでは、ディスプレイデバイスに用いる透明導電膜を百℃位の基板温度で10のマイナス5乗・cmの低い抵抗値を持つ薄膜を再現性よく作ることができました。今までの方法ではせいぜい三百℃ぐらいの温度で10のマイナス3乗Ω・cmでした。プラスチックなどには応用できません。幸い装置も順調にでき目的を達成することが出来ました。さらに、超高硬度膜、

高信頼性光学多層薄膜形成のためのプロセス技術の研究も進んでいます。

### 今後の展望

プロセス技術が進むと、それなりに、ガスクラスタイオンと固体との相互作用の詳細が求められます。これらには、原子レベルのプロセスを詳細に調べる装置が必要になります。超高真空のチャンパーの中で、X線光電子分光で固体表面の化学変化を見る装置や、飛び出す粒子を分析する飛行時間測定装置や、さらに電子線回折装置を持つクラスタイオン照射装置などを作りました。表面反応のダイナミックスが明らかになりつつあります。

### 池田 克夫 教授退官記念行事のお知らせ

本学 池田 克夫教授(電子工学科昭和35年卒)におかれましては、来る平成13年3月31日付けで、停年退官されることになりました。左記の通り退官記念最終講義が行われますので、御案内致します。

#### 記

日時 平成13年3月10日(土) 14:00~16:00  
場所 電気総合会館大講義室  
主催 京都大学大学院情報科学研究科知能情報学専攻  
連絡先 知能情報応用論分野  
藤川 賢治 ☎075・573・5387  
E-mail fujikawa@kuis.kyoto-u.ac.jp

また退官記念パーティーは平成13年5月26日(土)、京都ホテルにて行います。詳細は4月号で御案内致します。

クラスタイオン援用による薄膜形成過程は基板原子の動きを観測する必要があります。これには、超高真空チャンパー内で高温に加熱することが出来る走査型トンネル顕微鏡(S-TM)を持ったクラスタイオン照射装置が必要です。通産省の研究費をいただきこれを作ることが出来ました。勿論単原子イオンによるイオン援用薄膜形成過程も原子レベルで明らかになることが出来ます。イオン照射がどのように薄膜の形成に寄与しているか説明できる様になります。今まで、単に、イオン照射によって、表面原子のマイグレーションを助けて、良い結晶を作るのだとか、核形成位置の密度が変化することによるとか、実験事実も無しに、飽き飽きするほど繰り返して行われた理由説明に、終止符が打たれることとなります。

クラスタイオンの非線形照射効果をうまく使うと、高感度、高精度の材料分析法が可能であることもわかりました。クラスタイオン照射によって発生する二次電子の数は、クラスタイオンの構成原子数、即ちクラスタサイズ倍増加し、二次イオン放出はクラスタサイズ倍にさらに重みをつけた数が放出される事がわかりました。即ち、二次電子も二次イオン放出も、単原子イオンの場合の数倍から数千倍あることが分かりました。さらにイオンの照射をい

くら続けても、表面が荒れることがありません。照射エネルギーも極めて低いのでノックオン現象が無視でき、分析精度が良くなります。こんな分析法はクラスタイオンならではの事です。科研費をいただいで、第一号ができました。

ガスクラスタイオンビームは、注入、エッチング、薄膜堆積、さらに計測にと、今まで単原子イオンでは得られなかった、応用分野のあることが分かりました。このような、ガスクラスタイオンビームプロセスを実用的産業技術として役立たせるためには、もう一段、大がかりな研究開発が必要です。最近報道された、クリントンの二〇〇一年の会計教書の内容が、強く耳に残ります。日本はアメリカよりシーズ技術を生み出す能力に優れている。しかしバブル期に日本が研究開発プロジェクトをうまく進め、それらの成果を活かしていれば、今ほどの経済の停滞は避けられた可能性があったと。我が国の経済構造が変わり、一日も早く、基礎研究成果がどんどんと実用化されることを願っています。

長らく京都大学でご支援いただいた先生、事務のみなさんに御礼申し上げます。京都大学電気系のもう一つの発展をお祈りしております。どうも有難う御座いました。

山田 公(大府大昭36年卒)

# 迎春

二〇〇一年一月一日



## 日本電池 株式会社

取締役社長 田中 千秋

## 電気評論社

財団法人

## 近畿地方発明センター

理事長 近藤 文治

財団法人

## 応用科学研究所

## (株) 田中プリント

## 平成12年度電気系教室 懇話会報告

平成12年度の電気系教室懇話会は、10月27日(金)、3人の講演者をお招きし、電気総合館中講義室において100名以上の多数の参加者のもとに、その第1部が開催された。

最初の講演は大阪工業大学情報科学部学部長で京大名誉教授の木村磐根氏(昭和30年卒)による「ホームページ・GPS・大学院時代の研究」であった。情報科学部の近況を紹介された後、海上保安庁試験研究センターの研究者から受け取ったEメールについて話を始められた。それは、「現在10m程度以上の誤差があるGPSを用いた位置計測の精度向上のため、中波ビーコン電波にレフレックス信号を乗せて使いたい、それには中波伝搬の電離層による影響を調べる必要がある。その方法を探すためにインターネットでホームページを検索していたら、木村氏が大学院時代に研究した内容がヒットし、今の目的に適している。その方法を詳しく教えてほしい。」という内容であった。その方法とは、中波放送の直達波(地上波)が直線偏波であるのに対し、電離層で反射して来た波は円偏波であり、ゴニオメータを用いて両者を区別して受信しその到達時間差を測定すれば電離層の高さの経時変化などが分かる、とい

うものである。同研究者は早速、

木村氏の方法を現代の技術でより利便性を向上させて使用し、2000年1月に地上波と反射波の到達時間差を計測することができた。これにより、GPS利用位置計測の精度向上の見通しが立ったのであるが、同年5月、米国はそれまで誤差の原因だったGPS信号のSA(Selective Availability)を解除し、GPS信号による位置計測精度が格段に向上したため、残念ながら、研究者の研究目的のものが消失した形になってしまった。このエピソードを通して、ホームページに企業の研究成果も公表される時代になった中で、ホームページは多くの人が見るものであり、しかも情報検索機能が充実して来ているため、成果発表の場として大いに利用価値がある、と強調され、ここに至って我々も一見難解な講演タイトルの意味を、なるほどと納得した次第であった。

また、木村氏のこの研究は当時学会発表をして学会賞を獲得していたが、論文にしておらず、今回のようなこともあるので、きちんと論文にしておくべきだったと述べられ、これを教訓に皆さんも研究成果は学会発表に終わらず論文としておくように、とのアドバイスを頂いた。

最後に、若い人に洛友会に是非関心を持って欲しいと締めくくられた。

次に、「電力自由化と系統運用」と題して、関西電力(株)常務取締役森 詳介氏(昭和38年卒)が講演された。

電気事業の規制緩和の背景を説明された後、欧州や米国において先行している規制緩和の流れを紹介された。日本では、電源開発の長期化、負荷率の季節変動、円高による料金の内外格差などを背景に、95年に電気事業法が改正されて競争原理が導入され、入札制による卸発電への参入自由化がもたらされた。その後さらなる規制緩和が検討され、全面自由化、プール市場、部分自由化が比較された結果、エネルギーセキュリティや環境保全などの面を考慮し、2万V以上、2000KW以上の需要家(全体の約3割)に対して自由化する部分自由化を実施することとなり、2000年3月から改正電気事業法が施行された。特定規模電気事業者(PPS)は、その発電電力を自由化対象需要家に対し、既存電力会社の送電線を通して販売出来る。施行後、PPSとして3社が参入し、相対供給や入札による供給の例が始められている。

次いで、自由化による系統運用への影響についての分析を示された。例えば需給バランスについては、これまでの最経済負荷配分(需要の3分先を予測し、各発電

機出力を全燃料費が最小になるように電力会社内で制御する方式)が部分自由化の段階では維持できなくなるが、さらに自由化が進むと、市場により発電機出力が決定されることになるので、全費用の最小化とはならないだろうとの指摘があった。

また、供給信頼性のために予備力の確保が重要だが、自由化がより進むと市場原理が優先し確保は困難になるとの懸念がある。事実、米国では夏期の予備力が低下傾向にあり、それに起因した調整発電、輪番発電などの実例が紹介された。電力会社間の連系線運用も、運用量の長期事前契約が出来にくくなり、米国では事前検討の出来ない潮流状態に送電線の事故が重なり大規模発電が発生したことがある。

このように、現在の部分自由化では、これまでの電力会社での一体的運用がほぼ継続されるため実運用上大きな問題は生じ得ないが、さらに自由化が進むと先のような問題や、価格の高騰を招き、信頼性および経済性を損なう恐れがあるので将来のさらなる自由化の方針決定に当たっては十分に議論を深める必要があると結論された。ご講演に対しての学生からの質問にも丁寧に答えておられた。

三番目の講演は、星和電機(株)取締役社長富田泰薄氏(昭和42年卒)による「ITSの現状と当社の関

わり」と題するもので、ITSとは高度道路交通システムのことであり、渋滞、事故、環境の悪化などの交通問題の解決を目指すものである。

ITSには、政府の基本方針により建設省などで約600億円の予算が組まれており、今後十数年間の全産業への経済波及効果は約10兆円と予想されることである。ITSの開発分野として、車両情報通信システム(VICS)を中心とするナビゲーション、自動料金収受システム(ETC)、安全運転支援、交通管理の最適化、道路管理の効率化、公共交通の支援、商用車の効率化、歩行者などの支援、緊急車両の運行支援の9項目があり、これらを2010年から2015年を目標に本格運用することを目指しているとのことである。



星和電機は、道路やトンネル、および産業用照明機器、道路情報表示システム、ならびに交通安全機材や制御機器を製作しており、ITSの一端を担いつつある、との紹介があった。

ITSの開発分野について、各項目毎に実例を示しながら詳しく解説していただき、例えば、ナビゲーションについては、これが目的地に最短時間で誘導することを目的とするもので、道路交通情報をリアルタイムにドライバーに提供し、経路選択をしやすくするものであること、ETCは、高速道路での渋滞の30%が料金所で起こることから、料金の処理能力を現行の230台/時を800台/時にして渋滞を解消しようとするものであること、また、安全運転支援とは、カーブで対向車が迫っているなどの走行環境情報、危険警告の表示を行うこと、などを理解することができた。

また、ETCについては、日本が距離料金制を採っているため、ゲートでの双方無線通信が必要などの日本特有の技術的要請があることなども話題になった。富田氏は近い将来のITSの本格運用に向けて、VICSの充実やETCの拡大が必要であると力説された。

最後に、TLOとベンチャーに關しての話題を提供され、自社でも社内ベンチャーとして、電算部

門を独立させ星和情報システム(株)を発足させたことを紹介されたり、民間が独自の研究開発部門を持つより大学と協力して研究を行うほうが格段に効率的でありこれからのあるべき姿であろうとのお考えを披露された。

この後、第2部の懇親会が催され、講演頂いた3氏をはじめとする先輩、後輩140名有余の出席のもと、歓談に花が咲き、盛会のうち懇話会を終了した。

八坂 保能(昭和47年卒)記

会員寄稿

e-革命とe-詩想

矢島 脩三(昭31年卒)

同窓会「洛友会31関西」でIT革命(情報技術革命、e-革命)について何か喋れといわれました。困った挙句に、大昔の電磁気の神様 Maxwell の electrical poetry 「The Song of the Atlantic Telegraph Company」と昔々の学生時代の林重憲先生の電気回路にちなむ「Jw Stenmetz は地獄行き」を思い出して、21世紀を迎えるに当たっての苦し紛れの「e-ざれ歌」でもって、その場をしのごしました。

たまには、こんなのもよいのではという蔭のお勧めもあり、恥ずかしながらご披露いたします。お

楽しみ賜り、僅少でもハイテクストレス解消薬力が認められれば幸いです。

それではIT革命の講義を始めます。期末試験があるかもしれませぬ。

春うらら 花と緑に 青い空  
何をわざわざ e-革命よ  
生きるには 勝たねばならぬ  
我が者羅に  
何が何でも e-革命だ  
春夏と 秋冬こえる 幸せの  
道でなくては e-革命は

euiversity of emeritus professors  
幾らでも 何処で何時でも  
好きなだけ  
学びて習う e-学校  
Oxも Stanfordも アイビーも  
在宅受講で 晴れて修了  
京大も 東大早稲田 慶応も  
出前始めて e-講義かな

only one professor  
良いソフト ネキストいらん  
恐ろしや  
たった一つで あとはガラクタ

anti-monopoly  
強すぎた 法で分解 ミクロ窓  
窓の外では さてリラックス  
computing engine  
1ギガバ、クロック刻む  
これで始まる 二一世紀

childstation  
五十路越え トランジスタも  
生まれたて

大卒月給で やつと一粒  
サブミクロン トランジスタが  
オンチップ  
数千万個のぼくちゃんおもちや

internetwork  
うるさいぞ しゃべりすぎだぞ  
その人

1テラビットの 新人類は

superbrain  
チェスマシン ついに破って  
チャンピオン

将棋に囲碁は しばしまたれい

bio-century  
コンピュータ 百万台の  
パラレルで

バイオ反応 解明なるか

environment  
いの観よう 地球最後の  
その日まで

地球環境 模擬計算で

network working  
まぜ一杯 Javaローヒーで  
お喋りが

世界を巡る 共走言語

your brain X  
物事を理解しているそのお頭  
そっくりいただき プレインウェア  
何事も プレインウェアにまかせましょ  
わたしは昼ねのス(パー)ブレイン

future network  
ロボットとエイジェントなど 繁殖で  
どんなネットも つつかはパンク

how to soft instance capsul niddle  
食材に 料理メソッド カプセル化

オブジェクトだよ おいしいソフト  
archive millennium  
データベース ベタのバイトを  
威張ってみても  
アーカイブには 粘土板だけ

who are you  
あなた誰 わたしは誰ぞ  
ほんとかい

クローンもいるぞ わけがわからず

wireless  
有線には ほかうのかい暖モード  
飛び道具とは ヒキヨウせんばん  
より苦戦 軒並み頑張る

ワイヤレス  
何処もがなれば 世界標準  
ケイタイと 太いネットで  
あいらん

重いかばんよ ではさようなら

crypto  
社長にも 恋文とどくウェブで  
デジタル署名 公開の鍵

love virus  
I LOVE YOU to open or not to open  
sweetmail that is the question

ecity  
おいびやす 京の都は  
デジタルシティ  
社務所に 老舗も集い  
おこしやす 祇園さんには  
舞妓さん  
夢も実も これこそ浮世

e-commerce & e-trade  
エイジェント 買い物ですよ  
見付けておいで いいものを

僕のため

消費者と 生産者との 直結と  
 e-トレードは かしましく  
 悉皆や おべべなだりと  
 うまく取持つ プロバイダー  
 織りやさん

e-money  
 e-マネー 紙よりましか  
 とは申せ  
 最後の頼り 金銀銅座

celestial energy  
 オーロラの 強い電磁波  
 降り注ぎ  
 電子財産 きれいきっぱり

internet power amplifiers  
 情報の 増幅力は 限りなく  
 インターネットで 個人もガリバー  
 情報の 力学による 社会かな  
 トップダウンか ボトムアップか

e-song of e-company  
 e-情報 e-エナジーで  
 e-ファミリーに e-幸せを  
 さて行くか 次の世紀も 腰折れて  
 "The Twenty First e-Century"  
 The coming twenty first century

Begins with the heart  
 Beating at one Giga Hertz  
 Chatting over one Tera bits  
 Forgetting never one Peta bytes  
 To do e power to the e-business  
 Under patented models of  
 Internet business  
 With patented DNAs of your  
 head and yourself

The twenty first e-century  
 願わくは e-腰折れで 楽しまん  
 お頭絞って 疲れ果てても

## 二〇〇〇年に話題と なった国への旅

和田 治 (昭38年卒)

昨年は、5月中旬からの地球一周90日間の船旅を中心に、合計21の国を訪問することができた。訪れた国々は、政治的経済的に恵まれないところが多かった。これらのうち、和平や紛争に関係して日本で大きく報道された3つの国への旅を紹介したい。

### イスラエルとパレスチナ

エジプトからイスラエルの港町アシユドッドに、6月27日の朝入港した。イスラエルの入国審査は厳しく、特にパレスチナのガザを訪問する私達50人ほどのグループは水筒の中で調べられるほどだった。予定より1時間半遅れて出発、ガザ地区への入国エレッツ検問所でさらに1時間のパスポート等のチェックを受け、ガザに入国した。

ガザは地中海沿いに長さ60km幅6kmほどの細長い土地で、地形的に分断されたヨルダン川西岸とパレスチナ暫定自治区を構成している。イスラエルの占領下にあり、出入りと周りは厳しく監視されている。当時は、9月13日のパレスチナ独立に向けて和平条件が議論されていた時だが、ご存知のとおり独立は延期になってしまった。エレッツ検問所を通過したところ

でバスを乗り換えた。バスの質の差が両国の差を示しているようだ。ガザでは議会に相当するパレスチナ行政本部、エジプトに本校を持つアラブスバル大学、PLOファタハ事務所などを訪問した。

行政府では独立への思いとその問題点がイスラエルに対する批判となつて語られた。大学では学生連盟の各派代表の主張を聞いた。アラファト議長支持のファタハが主流ではあるが、5つほどの派があり、和平、独立にむけて一枚岩に行かない現状を知らされた。ファタハ事務所では一九八七年に起こったインティファダの被害体験者達の証言を聞いた。インティファダは民衆の投石やストなど、武器無しで戦った民衆蜂起であり、イスラエル非難に向け世界世論を勝ち得たと評価されている。昨年10月に始まった衝突は、両国ともこのインティファダの経験を踏まえた上での行動と思う。

その夜、私ほか4人がお世話になったホームステイ宅は両親と兄弟やいとこ7所帯が同居する大家族であった。男だけの家かと思っていたところにイスラム装いの7人の女性が急に現れたときにはびつくりした。この一家は、ここでは中流以上と思われるが、イスラエルから布地の支給を受け、ミシンで衣類に加工する下請け業を営んでいる。ガザは経済的にもイスラエルの支配下にある。

帰船時のチェックで、「一度無くして戻ってきたものが無いか」と質問された。治安と安全確保のためイスラエルも必死であるようだ。

イタリアまでの間、パレスチナ人3人、イスラエル人2人が乗船し、5度にわたり講演会やシンポジウムが開かれた。ただしイスラエル人は和平に向け活動するNGOの人達であり、全体としてかなりパレスチナ寄りの姿勢である。それでも両者には和平条件に隔たりがあり、この問題の難しさを感じさせられた。



### コソボ(ユーゴスラビア)

NATOのユーゴ空爆が停止して約1年。7月2日、クロアチアの世界遺産、城壁都市ドブロブニクを後にバスでモンテネグロ共和国経由セルビア共和国のコソボ自治州に向かった。イタリアへ向かう船から離れ、コソボを訪問する3泊4日のツアーである。モンテネグロでバスを乗り換えた。モンテネグロとセルビアはユーゴスラビア連邦を結成している。同一連邦共和国内のドライブのはずだが、危害防止を考え、私達の団体名「PEACE BOAT」の即席ピラが車体のあちこちに貼られた。コソボ国境でNATOイタリア軍の戦車に出迎えられ、このあとペア市、ジャコバ市、首都プリシュチナを訪れた。

99年セルビアの治安部隊や民兵によって破壊された家屋は一年余り経った今、再建途上にある。学校や水道設備の修復などで、欧州を中心とするNGOの支援活動が目覚ましく、人々に感謝されていた。日本からはプレハブ住宅500戸の提供や1500家屋の緊急修復など1億ドルの支援が成されているが、人による支援は無い。ペアで一夜お世話になった家族は、避難先のドイツからひと月前に戻ってきたところであった。家屋は不完全ながら修復され、テレビやレンジなど家具類も新品が揃えられていた。思った以上に物質的な復



興は進んでいる。

アルバニア系住民にとつての最大の関心事は目の前で連れ去られた家族の消息である。が、ジャコバにある行方不明捜索事務所ではその調査の難しさを嘆いていた。民族浄化のもとになされた殺戮の跡をどう辿ればよいのか。

NATO主体の国際部隊と国連コソボミッションの統治に移り、コソボに残るセルビア人は2%にまで落ち込んだ。今、かつての加害者セルビア人が迫害の恐れの中で生活している。戦車で保護されているセルビア正教会を訪れた。「コランにも記載されている許すという言葉に将来を託したい。しかし20年はNATOの保護が必要」との修道士の話が頭にのこる。コソボではセルビア人、アルバニ

ア人両方からNATOは必要とされている。

首都プリシュトナでは国連コソボミッションを訪問した。家屋破壊や家族の殺戮、拉致を目の当たりにしたアルバニア系住民にとつて、セルビアからの独立は当然の思いである。しかし、国際社会は他の地域への飛び火を恐れ、コソボの独立を前例とすることに消極的である。

セルビアの首都ベオグラードで平和運動を行っている女子学生が、帰国後の咎めを覚悟の上、イタリアから乗船してきた。彼らの運動は、後を問わず、先ずミロシエビッチ政権を倒すことだった。2000年10月、彼らの願望は達成された。しかし後継大統領も民族主義者で、かつコソボはセルビアの一部として統治を演説している。コソボの前途は見えない。

イスラエルでは、ユダヤ人とパレスチナ人そしてユダヤ教とイスラム教、ユーゴスラビアでは、セルビア人とアルバニア人そしてセルビア正教とイスラム教。民族問題と宗教問題は、平和な国日本では難解である。

朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)

9月6日、北朝鮮の船で新潟から元山に入港。6月韓国金大中大統領の平壤訪問で和平と統一のムードが一気に高まった時である。

第一印象は、金日成主席、金正

日総書記に対する異常なまでの崇拜である。両人の肖像や肖像画は至る所で見られ、また国民全員が肖像バッチを胸に着けている。錦山記念宮殿には金日成主席の遺体が安置されている。この場所へは正装で整列し、動く歩道のある長い渡り廊下を歩む。主席の肖像にあいさつした後、エアージェットで衣服の埃を除き安置室の透明ケース内に横たわる生前の姿に敬意を表する。この場所を訪問できる人は限られた人であろう。ガイド説明には何度も「偉大な金日成主席」が出てくるが、本当に信じ込んで使われているように思われる。近藤会長が会報に連載されている「戦中派の学生生活」当時の日本と相通するところがある。

宿泊した平壤のホテルは5つ星クラスであり、部屋の窓から見える街並みだけを見ていると、GDPが日本の1%にも満たない国とはとても思えない。平壤は人口制限をおこなっているとのことなので、地方との生活レベルの差は大きいと思われる。平壤ではバスと地下鉄が市民の足である。地下鉄は駅ごとに壁画で物語が描かれており、地下の宮殿としてこの国の誇りになっている。極めて深いところに建設されている疑問に対して、いくつかの理由の最後に、建設当時の冷戦状態を考えた避難場所との答えが戻ってきた。

宿泊客の観光や送迎のため使われるバスは日本で使い古した後のM社製であった。この国は右側通行であるため、出入口が歩道側と反対になる。しかし車の数が極端に少ないので不便や不安は感じなかった。地方につながる幹線道路は良く整備されているが、走行する車よりも、歩いている人々の姿のほうが目に付いた。地方には路線バスといった公共交通手段が無いようなので人々は歩くことしかない。この国では、今自転車の普及を考えているとの説明があった。農場訪問でもらったトウモロコシと梨は、品種の違いか不作のためか分からないが日本のものに比べ半分くらいの大ささだった。人々の主食になるトウモロコシは甘みが少なく粒を簡単にとることができるとのこと。昔日本にもあったように思う。

広場ではマスケームの練習がよく行われていた。「皆は一人のために。一人は皆のために」がこの国の教えとのことだ。

南北の接点の地、板門店を訪れるバスの中で案内の人から思いを込めた「統一の歌」の指導があった。しかし1ヶ月後、同じ板門店を韓国側から訪れて、改めて50年間の空白を感じた。思想と価値観の違い、個人収入で一桁近く差のある経済格差を南北統一に向けてどのように調和していけばよいのだろうか。

朝鮮革命博物館には日本植民地

支配の歴史が詳しく展示されており、金日成主席は反日闘争の指導者として語られている。日本と国交のなかったこの国では、日本支配時の歴史が今も人々の生活の中に伝え続けられていると感じた。朝鮮とは有史以前から交流があり、多くの帰化人の血が日本人の中に溶け込んでいる。50余年の空白は歴史的に見ても異常である。早い国交回復を願う。





### 自麦酒ノススメ

能見 和司 (昭54年卒)

皆様は日頃どんなお酒を楽しんでおられるでしょうか。

ビール好きの私は、飲むだけでなく、このところ「自ビール」の楽しさに目覚めています。きっかけは、私の住む福岡県宗像市の文化教養講座の一つとして開催された手作りビール教室に参加したことです。

自ビールとは、ここ数年、雨後の筍のように全国各地に生まれてきたマイクロブルワリー即ち「地ビール」とは異なり、ホームブルワリー即ち自分で作るビールことです。

そんなことが簡単にできるのかとお思いでしょうが、達人曰く「猿にもできる」とは言わないが、カレーを作れる人間ならできる！」とのこと。基本的には「ビールの素」なる缶詰をお湯で薄めて酵母菌(イースト)を入れ、発酵を待つてビン詰めすればおしまい。それならできそうな気になりませんか？

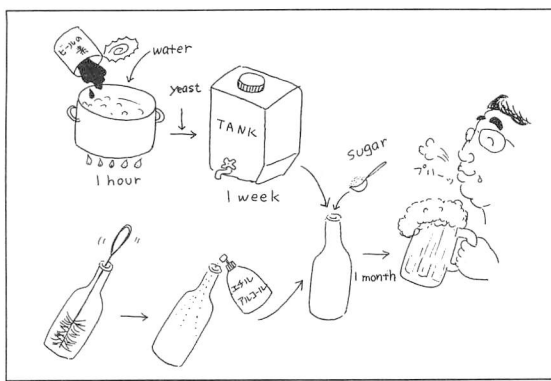
とはいえ、何事も奥の深いもの。ビールの場合、酵母菌という生き物に獅子奮迅の働きをしてもらわなければうまくいきません。そのため、弱い酵母ちゃんを外敵から守り(消毒殺菌)、気分良く働くための環境を整える(温度管理)という2点がポイントとなり

ます。私の場合、自ビール作りの多くはビン洗いとアルコール消毒に費やされると言っても過言ではありません。また、18〜26℃でしか菌が働いてくれないので、一部屋まるごと自ビール作りのために空調完備の部屋を持てるほどのお金持ちでない私は、春秋期にしか仕込みができません。

さて、そういったほんの少しの苦勞の後で、肝心の味は？

自分で作ったビールはうまい、というのが紛れもない実感で、だからこそ何度も作っているのです。特に「地ビール」系の濃い味が好きな方は間違いなく気に入るでしょう。

もう一つの自ビールの利点は、栄養満点の酵母菌を「躍り食い」でき、健康に良いこと。メーカ製ビールは品質管理と透明度向上の



ために、酵母菌をわざわざマイクロフィルタで取り除き、これを栄養薬品(ビール酵母製剤)として加工しています。(ちなみにメーカの言う「生」ビールというのは、この酵母菌の除去を加熱処理でなくフィルタ処理でやるというだけの意味で、生きた酵母菌がないことには変わりなく、紛らわしい表現です。)

自ビールの場合、この特徴の反面で、酵母菌が生きているために出来不出来の差が大きく、同時に仕込んでも一本一本の味が違うということが言えますが、わずかな量を自分で作って楽しむ分には多少の味の差は面白いもので、このことは必ずしもデメリットとはなりません。

逆に言えば、何億本作ってもスーパードライや一番〇りといった製品ブランドとしての味の均一性が保たれているのは、メーカの品質管理のすごさを物語るもので、これは自分で作ってみて初めて実感しました。

皆様の中には日夜、電気の世界に身を置いている方も多いと思いますが、化学反応と微生物の世界に触れられ、しかも成功後の美酒が文字通り約束されている「自ビール」の世界で、たまには遊んでみては如何でしょうか。

なお、自ビールについてもっと詳しく知りたい方は、我が国の自ビール界の草分け的存在である山

本勝氏の主宰する「醸自倶楽部」のホームページ (<http://www.george-club.com>) が便利です。

ちなみに氏は、京都大学農学部食品工学科微生物生産学教室の出身で、まさに専門知識と趣味と実益を合体させた精力的な活動をしておられます。

最後に、デカルトならぬある自ビール達人の座右の銘を。

「I brew, therefore I am. (我醸す、故に我在り)」

### 趣味はゴルフ!?

林 正則 (平5年卒)

私は、平成7年に就職いたしました。学生であった頃、特に趣味を持たなかった私は、入社してまもなく同僚のすすめにより、ゴルフをやりはじめました。

一年目は、ゴルフコンペ等には参加せず、時々練習場に行く程度で、たまに友人とミニコースへ行つて練習の成果を確認しておりました。練習では、20球に1球でも自分なりのスパーショットができればよいと思っておりました。それで、できるだけ遠くに飛ばせるように常にどのクラブでもフルスイングで練習を重ねてきました。

2年目に入り、何回かゴルフコンペに参加するようになりました。

た。はじめてゴルフコンペに参加して、最も強く印象を受けたことは、年配の方々が予想外(!?)にスコアをまとめてくることです。

私のその当時のゴルフ観は、まず、できるだけ遠くに飛ばすこと、で飛飛ばしておけば、残りの距離が少なくなる分、スコアアップにつながる可能性が高いと思っていたからです。ところが、第1打で私が

ナイスショットを放ち、第2打目を最後に打ったとしても、そのホールを終了してみると、私の方が多い打数で上がっていました。私は、申告ミスではないのかと、いつも疑っていました。しかしながら、ホールを重ねていくうちに、自分が無駄なショット(ミスショット・トラブルショット)を多く放っていることに気づいてきました。すぐに気づかなかつたのは、ナイスショットを一度すれば、ミスショットは3度ほど帳消しにしてくれるというような感覚を持っていたせいだと思われま

す。しかし、ゴルフは(これは私の考えですが)、ナイスショットを多く放とうと心掛けるよりも、ミスショットを少なくするよう心掛ける方が、スコアが良くなるとわかっていながら、ナイスショットを放つたときの同じパーティからの声がうれしくてたまらず、前者のようなハイリスクハイリターン

のゴルフを続けてきました。した

がって、私のゴルフのスコアは、110から120の域を4年間も脱出できませんでした。さすがに4年くらい経って、スコアの進歩がないと恥ずかしいので、考え方をかえて練習をするようになりました。その甲斐あって、今年、生まれてはじめて100を切るスコアを出すことができました。周囲の方からみると低レベルのスコアでしようが、私にとって100というスコアを切ったことは、本当に皆さんにお知らせしたくてたまらないくらいうれしいことでした。

これまで、ゴルフを自分の趣味として話してきましたが、この文章を書きながら、本当にゴルフが趣味なのかと疑問をもちました。ゴルフをはじめてからは、趣味は？と聞かれるとほとんどの場合ゴルフと答えてきました。しかし、自分はゴルフについてどれくらいの知識があり、どれくらいの腕前をもっていいのかと考えてみると、ルールについてさえ知らないことがある、有名なプロゴルファーも知らない、スコアは100を一回しか切ったことはない。このような状況でゴルフを趣味といえるでしょうか？そんな疑問が私の頭に浮かんだのです。しかしながら、私がゴルフを続けてこられたのは、ゴルフが好きだからです。それでは、何故ゴルフが好きなのでしょう。理由として2点考えられました。一点は、コースでプレ

1するよきの環境です。快晴の中で緑に囲まれプレーをするのは、スコアが悪くてもそれを忘れさせてくれるくらい気持ちのいいものです。私は、その点にまず惹かれているのだと思います。もう一点は、企業の中では、さまざまな年代の方々がゴルフを趣味に持つているため、常に共通の話題になるということ。共通の話題となるとコミュニケーションがとれるという事です。いろいろな場所です。つまり、ゴルフは一人でやるスポーツですが、私が趣味としているのは、みんなです。ゴルフ“なのです。だから、スコアはそれほど気にしません（言い訳にしか聞こえない？）。

◎お断り  
「戦中派の学生生活(X)」  
は今回もお休みいたしました。

同窓会だより

十八年会旅行

昭和18年卒業の我々は毎年一泊旅行をしている。今年は関西が当番で関東希望の奈良旅行を実施した。計画に当たっては(一)足腰が弱くなっているので観光箇所は歩

く距離が短い処、(二)宿舎は個室の多いホテル、(三)料理は量よりは質とし思い出に残る様な内容にする、(四)奈良は二回目なので一回目の観光箇所は対象から除外する。を条件として奈良の観光会社と相談して次の様な計画を立てて皆様に案内状を出した。尚出来れば紅葉の時期にしたかったがホテルが満員で10月3日、4日実施となった。

(第一日) 14時迄にホテル(猿沢の池に近い)に集合の上近くの「ならまち」界限(最近若者に人気がある)を自由散策、夜懇親会  
(第二日) 9時貸切バスで出発、「岩船寺」「浄瑠璃寺」「秋篠寺」「平城宮跡、朱雀門」を観光、15時近鉄奈良駅前で解散。

7月末締切ったところ予想を若干下廻ったが20名の参加申込みがあった。ところが実施段階になって体調不良による参加取消が6名あり、参加者は14名に減じ、更に第二日の観光参加者は10名という未だかつてない淋しいクラス会旅行だった。でも観光箇所はいろいろも由緒ある寺で特に浄瑠璃寺は紅葉には早かったが池を巡る景色が素晴らしく三重塔も美しかった。

参加者からはホテルの食事は最高だった、昼食も良かった、観光もこの程度の歩行では問題ない等と慰めの言葉もあり、幹事としては助かった。80才台になると色々体調に問題が生ずるので、観光

を折込んだクラス会については再検討の必要があると痛感した。ただ年に一度は皆で集まりたいので来年は京都の駅前ホテルで懇親会をしては如何かとの意見があったことを報告しておく。  
(奈良旅行参加者)

- 稲野、氏原(2)、植田(2)、川口
- (2)、木村、楠本、近藤、杉根、高木、並木(2)



並木 博(昭18年卒)記

洛友二六年会

カナダ旅行(一)

平成12年9月8日~16日

二六年会は平成13年、卒業50周年を迎えます。ここ20年来、毎年

京都と地方交互に会合を持っていましたが、平成11年秋犬山の会合で笹岡君(カナダ事情に詳しい、妹さんがビクトリア在住)の、「夫婦同伴でカナディアン・ロッキーマウンテン観光提案」があり、1年後平成12年9月実現したものです。  
会員は同伴7組と単身3名で予定の20名に達せず、アルゼンチン組を含む会員外の2組の参加を得て総勢21名のツアーになりました。

カナディアン・ロッキーマウンテンは世界遺産に登録され、世界的に人気が高く日本人観光客も非常に(ひよつとしたら地元カナダ人より)多いが、殆どは1988年冬季オリンピックのカルガリーからバンフへ入り、ここから北上してコロンビア大氷原までというコースのようです。

我々は幸いにも笹岡君が妹さんを通じて、現地バンクーバーの旅行社に手配、バンクーバーからトロント行き「カナディアン号」(週3便で人気が高く、個室寝台は1年前の予約が必要とか)でジャスパー(バンクーバー、カルガリー700キロを斜辺とする直角三角形の直角の頂点ぐらいの位置)にあり、ジャスパー〜カルガリーは400キロ)に入り、ジャスパー国立公園、バンフ国立公園を満喫出来ました。カナダの面積は日本の27倍、人口3千万、(尤も北は無人地帯、人口の殆どはアメリカに接した南

部に住む)バンクーバーのあるプ  
リティッシュ・コロンビア州(州  
都はビクトリア)の面積は日本の  
2倍、カルガリーのあるアルバー  
タ州は日本の1.7倍。両州の間に時  
差が1時間あり、ガイドの言う  
「カナディアン・ロッキーにはス  
イスアルプスが10個ある」も決し  
て誇張でなく、その広さに圧倒さ  
れます。

参加者は地域別・名簿順に、岡  
本・笹岡・立川・安田・山本、以  
上関東、石川(名古屋)、村尾・  
若林・北尾・杉山、以上関西、会  
員外、徳永(京大・機械29年  
卒)・滝波(アルゼンチン在住の  
3世)

9月8日(金)9時~10時、先  
発及びアルゼンチン組を除く4夫  
妻プラス3人計11人が成田、名古  
屋、関空からバンクーバー空港に  
集合、このツアーの詳細を企画し  
て頂いた「AKトラベル」の川端  
さんの出迎えを受け、バスで市内  
観光に出かける。

我々が大学の同窓会とあって、  
先ずプリティッシュ・コロンビア  
大学へ案内されました。広い構内、  
右に新渡戸記念庭園(新渡戸氏と  
B・C州の関係は後述)、左に人  
類学博物館を車窓から眺め、(時  
間がないので雰囲気だけ、大学構  
内といえあまりに広いので構内に  
路面電車が走っている。)大学通  
りを東進、市庁舎前のキリン・シ  
ティスクエヤーの中華店で昼食。

中華街(バンクーバーには中国  
系が非常に多い)、旧日本人街  
(戦前日本人移民は多数居ましたが  
アメリカ同様太平洋戦争で強制移  
住させられた)などを観光しなが  
らクイーン・エリザベス公園へ。  
ここでシアトルからの笹岡・立  
川・村尾の先発組と合流、緑の中  
で暫し旅の疲れを癒した後、16時  
30分、VIA鉄道駅に到着した。  
ここで全員集合。

列車の編成は22両、内5両が展  
望車(食堂車)、我々は全員個室  
寝台が取れたが、その代わり全員  
同じ車両とはいかず全長400メー  
トルを超す列車から自分の車両を見  
つけるのに一苦労だ。

17時30分列車は音もなく発車、  
時速60キロぐらいか? 発車後各  
車両に1人付く車掌(カリンさん  
という美女、すこぶる陽気)が挨  
拶に来る。教えられた通りチップ  
10カナダドルを渡した。(チト高  
いようだが、ベッドメイキングと  
いう重労働を含んでいる)

元気な連中はサロンに集まって  
子供の遠足のように早くもパーテ  
ィー。車窓には針葉樹の森と、鮭  
が上がつてきそうな川がゆったり  
と広がる。

貨物列車とは何度もしれ違っ  
た。単線でも行き違い停車は殆ど  
無い。行き違い用の長い線路が要  
所々に敷設してあるからだ。貨  
物列車はコンテナ車を100両以上連  
結している。旅客収入は完全赤字

との事、しかし100年前、B・C州  
が英国からカナダに編入の条件が  
この鉄道敷設だったという歴史か  
ら旅客輸送を止める事は出来ない  
との事である。

食事は予約制で一番遅い組は8  
時を過ぎる。幸い遅い組も、後か  
ら殆ど一緒になれ、宴会が始まる。  
食後、展望(ドーム)車に行つた  
が残念ながら曇天、「満天の星」  
は見えない。

食後は寝るしかない。飛行機で  
睡眠不足、すぐ眠れると思つたが  
(他の人は知らないが)列車の振動  
で全然眠れない。その上列車酔い  
で気分が悪くなった。折角のVIA  
P扱いの夜行列車、筆者だけ最悪  
であった。

真夜中、列車は停車したようだ  
が駅舎は見えない。外はかなりひ  
どい雨だ。6時(途中時差の為時  
計を1時間早める)過ぎ薄明るく  
なつてきた。雨は止んでいる。沿  
線の針葉樹林が美しい。列車は川  
に沿って走る。川向こうのドライ  
ブウェイには車は殆ど見掛けな  
い。人家も全く無い。目的地ジャ  
スパーの標高は千メートル強、日  
本ならトンネルと鉄橋の連続だが  
流石大陸、一度もトンネルにあわ  
なかつた。(寝てる間にあつたか  
も?) 8時頃殆ど全員、一緒に朝  
食が出来た。このあたりからカナ  
ディアン・ロッキーの最高峰ロブ  
ソン山(3954m)が見える筈  
だがあいにくの雲。

ジャスパー駅到着  
10時45分、予定より30分早くジ  
ヤスパーに到着。日本の鉄道では  
考えられない、大陸を実感。列車  
はここで1時間停車、車内清掃と  
諸サービスの準備をするようだ。  
駅にはプラットホームはない。踏  
み台を設置してもらつて降りた。  
旅行社の宮崎まき子さんが「洛友  
26年会」の板を持つて出迎えてく  
れた。

宮崎さんはうら若い独身女性、  
1人でジャスパーの下宿住まい、  
これからバンフのリムロックホテ  
ル到着までの3日間お世話になる  
事になる。

駅の側にトータムポールが立っ  
ている。バンクーバーの公園にも、  
また最終訪問地ビクトリアでも数  
多く見られる。先住民の魂が観光  
資源になつているわけだ。



今日と明日泊まるパークロッ  
ジ・ホテルは駅から7キロ、バス  
で10分かかる。11時50分、駅前を  
出発、小雨が降り出す。この旅行  
の出だし(9日から10日にかけて)  
は少し天候が悪かつたが後帰国ま  
では快晴、素晴らしい旅行であつ  
た。ジャスパーは人口5千人、  
25%が鉄道関係、25%が国立公園  
関係との事であつた。ホテルのロ  
ビーで各自昼食を済ませ、午後は  
近くのウイスラー山(2464m)  
へ行く。ロブウェイのトラム山  
駅(1300m)からトラム山駅  
(2270m)まで8分、曇、あ  
まり眺望はよくないが時々北方に  
ピラミッド山(2762m)が顔  
を出した。ロブソンは見えない。

山頂の方へ少し歩く。雪が降つ  
てきた。風も強く、防寒具でも寒  
い。ジャスパー駅前を買った皮手  
袋が有り難い。早々に下山する。  
16時、ホテルチェックイン。

宿舎は綺麗な湖の周りに丸太を  
組んで建てられたロッジ風の建物  
で、パークロッジとはこれが数十  
棟建てられているという意味であ  
ろう。一棟は4宿舍、2重扉を開  
けてびつくり、8帖ぐらいの前室、  
広いベッドルーム、バス・トイレ  
も豪華そのものである。日本なら  
一泊10万円はするだろう。土地の  
広いカナダなればこそか、7時半、  
夕食はホテル本館、21人が食堂中  
央に陣取り、素晴らしい晚餐にな  
つた。ピアノの演奏が始まり、夕

ンゴの本場アルゼンチンの滝波夫妻が先ずステップを、後、有志夫妻が続く。旅の疲れも何処かへ吹っ飛ばす。9時半、充分楽しんで各自ロッジへ、寝る前にプール、サウナの組もあった。

石川 進 (昭26年卒) 記  
(次号につづく)

支部だより

中部支部家族同伴秋の例会  
決戦関ヶ原大垣博と「なばなの里」ベゴニアガーデン見学

10月7日(土)は中部支部・秋の例会、今年はミレニアム、天下分け目の関ヶ原合戦から丁度400年、NHK大河ドラマ「葵徳川三代」が放映中とあって名古屋から一時間の

大垣と、これも近くの三重県「なばなの里」を訪ねる事になりました。例年は秋も深まる11月実施が多かったのですが、大垣博が10月9日までとあって博覧会終了前の土曜日となりました。

参加人員は16名、今年90歳の川端さんには一番若い伊与田さんでも昭和45年卒と、若い会員の参加が無いのが残念ですがそれだけ参加者は顔なじみばかり、楽しい旅行です。

名古屋駅前を8時半出発、一点の雲も無い秋晴れの尾張路、国道22号線を北上、名神一宮インター

へ向かいます。途中工事の為(一般道ではやむを得ません)若干渋滞、この時間を利用して今年の支部総会で「中部支部で校歌代わり」に歌うこととなった琵琶湖周航歌の歌詞が配られ、みんなで合唱しました。歌っている内にもう一宮インター、高速に乗ったと思ったら15分で大垣インターです。大垣博会場は市の中心部・大垣公園にあり、大垣城のお堀は埋立てられ、今はありませんが、その水源の水門川がそばを流れておりこの川が揖斐川に合流します。

大垣は中仙道と東海道・桑名を水路で結ぶ交通の要所、水都と呼ばれています。会場に入る前に会場のすぐ南、舟町港跡横の「奥の細道結びの地記念館」に立ち寄りました。以下は記念館のパンフレットからの借文です。

元禄2年の秋、俳聖・芭蕉は約5ヶ月の漂泊の旅を、ここ大垣で終えました。世に名高い「奥の細道」の旅です。その折、芭蕉は「蛤のふたみにわかれ行秋そ」と詠んで、水門川の舟町港から桑名へ舟で下りました。

大垣には芭蕉と同門の谷木因が舟町港の船問屋を営み、芭蕉との交わりは深く、芭蕉は4回も大垣を訪ねています。当時大垣の俳諧は藩主戸田公の奨励もあり、俳諧は美濃一円に広がりました。

大垣にはこの記念館の周辺に芭蕉ゆかりの句碑が数多く立てられて

ています。

筆者には俳句は分かりませんが川端先輩は洛友会報に何度も投稿されるほどの俳句の先生(むいつの俳号)さぞ感慨深い事だったと思います。見学の後いよいよ大垣博会場、会場は大垣城公園の周りを丸太の柵で囲ったものです。さすが会期を後3日残すだけ、しかも土曜日とあってなかなかの賑わいです。記念写真を撮ってあと自由見学、元気な人は大垣城に登って実際に関ヶ原方面を望遠、昔を偲びました。

メイン会場・決戦関ヶ原館では大河ドラマ「葵徳川三代」を通して、関ヶ原合戦を分り易く紹介、又映像や照明、音響を酷使、臨場感いっぱいに関ヶ原合戦を再現。又当時の武器が手にとって見られるなど天下分け目の戦いを「見てふれて遊ぶ」テーマ館です。

西軍の総大将、石田三成がここ大垣城で東軍を迎え撃とうとしたが家康は時間のかかる城攻めを嫌い、西軍を関ヶ原へ誘いだし、小早川秀秋の裏切り(西軍にとって)により一ヶ月はかかると見られていた戦いが僅か8時間で決着したことが実感できる。

以後270年は天下泰平、戦国時代とその総決算の関ヶ原合戦の犠牲があつてこそ明治維新後の日本近代化が出来たものと思います。(現在のアフリカ発展途上国の民族紛争の悲劇は戦国時代と関ヶ原

の犠牲と270年の助走期間がないまま、高度文明に晒された為でないでしょうか)

博覧会会場見学の後、会場に隣接の大垣市郷土館(常設)を見学して、昼食は市内のホテルです。今回は初めての近場の行楽会、懇親会の時間はたっぷり、例年のように最高齢の川端先輩のご発声により乾杯、食事・懇親会に入りま

す。中部支部には一昨年百歳で亡くなられた故本多顧問が居られました。川端さんは本多さんより一回り若い(?)戊午、「長寿の秘訣は」ずばり歩く事、毎日午前・午後30分歩くというお話でした。さすが今日の博覧会会場から芭蕉記念館までの往復、若い者(?)に負けない歩きぶりに一同感服。続いて恒例のスピーチ、奥さま方も交えて懇親の輪が広がります。

一時半、次の見学地「なばなの里」へ向かいます。ホテルを出て10分足らずで揖斐川大橋を渡り、長良川です。大垣はこれら的大河流域にあり、地下水が豊富で正に水都です。ここから堤防を南下します。堤防道路は2車線ですが、信号も無く眺望もひらけ、快適そのものです。唯この揖斐・長良に囲まれた一帯は洪水の危険地帯、住民は各所に「輪中」を造り自衛しました。更に下ると東側に木曾川、江戸時代この木曾三川の氾濫を防止する難工事を命じられた薩



摩藩(薩摩の財力を削ぐ為)の悲劇(家老が責任を取って切腹、この時の恨みが明治維新の遠因ともいわれます)の場所が木曾三川公園となっています。ここから薩摩藩苦難の道、「千本松締め切り堤」正に一本の揖斐長良川の中道です。そして終点が国道1号線・伊勢大橋(伊勢大橋は揖斐・長良両川に架かっている)とのT交差点です。今まで信号のなかったお返し、ここで長がい信号待ちです。すぐ前に悪名高い長良川河口堰(長良川は全国の大川で唯一ダムのない川でした)が堰を上げたまま見えます。千五百億円かけた昭和・平成の壮大な無駄、昔の薩摩藩の悲劇、今は昭和の喜劇ですか?

ここを左折、長良川を渡れば三重県長島町、この町は木曾・長良両川に挟まれた三角州のようなまさに「長い島」です。40年前此処で温泉が出て大ブームになりました。今もこの先端に一大レジャーランド「ナガシマスパーランド」があります。

定刻2時半、「なばなの里」に到着しました。このあたり一帯はなの花（なの花は普通菜種油を採る為に作りますが、ここで作られるのは花つまり菜花を食べる、なの花です）の栽培地という事で「なばなの里」と名づけられました。

ここは9千㎡の大温室「ベゴニアガーデン」があります。この「ベゴニアガーデン」を中核とし、大温泉浴場、日、中、仏、伊のレストラン、そしてハーブの花畑、日本庭園を配した一大新観光名所です。駐車場にはかなり遠方からの観光バスも多数見受けられます。

我々のお目当てはもちろん「ベゴニアガーデン」、大温室に入った途端、地上と天井に釣っている大輪のベゴニアに圧倒されます。今まで歴史の感傷に浸っていたのが一転してお伽の国へ入った気持ちです。子供の頭ほどもある、数百種・一万二千株の絢爛たる花、花、花、訪れる人々を限りなく華やかにお迎えする、説明書にいつわりありません。しばし現代の

「桃源郷」を満喫し、ハーブ園に出ました。

ここはベゴニアガーデンの華やかさはありません。ハーブのかすかな（薄荷のような）匂いが漂います。野外食堂で冷たいハーブ飲料で喉を潤し小休止の後、又ベゴニアガーデンを抜けて、レストランや大浴場を横に見ながらバスに戻りました。

4時、バスは「なばなの里」を後にし、すぐ東名阪・長島インターです。ここからもう名古屋まで30分、今年の例会は初めての近場巡りでしたが、近い所でも「歴史と現代が楽しめる」絶好の秋晴れに恵まれ、素晴らしい一日でした。

石川 進（昭26年卒）記

### 関西支部家族見学会報告

関西支部では、10月1日(日)に恒例の家族見学会を開催し、岐阜県にあるかかみがはら航空宇宙博物館と、大垣市で開催されている決戦関ヶ原大垣博を見学いたしました。本部から近藤会長、大嶋副会長にお越しいただいたのはじめ、田中支部長以下総勢95名の参加者となりました。

明け方まで降り続いた大雨も集合時刻にはきれいに晴れ上がり、京都、新大阪とも2台ずつのバスに分乗して、最初の目的地のかかみがはら航空宇宙博物館へと向か

いました。バスガイドさんの即席ビンゴゲームなどで盛り上がるうちに、順調に高速道路を走り、目的地の博物館に到着です。

博物館の屋外展示場では懐かしいYS11や海上輸送機などが並び、館内にはいると複葉のZ式一型偵察機から低騒音STOL（短距離離着陸）実験機の「飛鳥」まで様々な飛行機が展示してありました。お目当ては双発ジェット機などの本格的なシミュレーターです。ヘリコプターのコックピットから操縦桿を操作して、前方の模型ヘリコプターを離着陸させる練習機もあり、なかなか思ったところに着陸してくれませんでした。「孫も連れてくればよかった。」という声もあがる中、楽しい時間はあっという間に過ぎてしまい、集合時間が近づいたためにシミュレーターの順番待ちをあきらめてバスに向かった方もいらつしやいました。

お腹も空いたところで長良川の畔、金華山のもとにあるホテルパークに移動して昼食です。田中支部長、近藤会長のご挨拶、大嶋副会長の乾杯のご発声に始まり、鮎の塩焼きなどのごちそうをいただきながら、恩師の先生方や同窓の皆様と和気あいあいでご歓談いただきました。

食事の後は大垣博の会場に向けて出発、途中通った岐阜市内では今も路面電車が走り、学生時代の

京都を思い出された方も多かったのではないのでしょうか。

洪滞のために少し遅れて大垣博の会場に入ったところ、いきなりものすごい轟音が響きわたります。楽しみにしていた火縄銃の鉄砲隊演舞がちょうど始まったところでした。発砲のたびに、空気の振動が感じられるほどの轟音とともに銃身から煙が上がります。クライマックスの連続一斉砲撃が終わるとあたりは白煙に包まれ、一瞬の静けさの後に大満足の拍手が響きました。

この後、馬防柵の中に入って鉄砲隊の方々に鉄砲や刀剣を見せていただきましたが、実演直後の銃



### 第74回関西支部ゴルフ競技会報告

身はさわつてみるとまだ熱く、空砲とはいえ火薬の威力にもう一度びっくりです。大垣博は関ヶ原合戦から400年の節目に開催された地域博で、最終日も近いとあって会場は大にぎわいでした。決戦関ヶ原館などのテーマ館や、大垣市郷土館を見学した後は再びバスに乗り込み家路についたのでした。帰りもまた洪滞のために1時間以上遅れての帰着となりましたが、胸に、また来年の再会を楽しみにしての散会となりました。

水谷 實（昭59年卒）記

### 第74回関西支部ゴルフ競技会報告

第74回関西支部ゴルフ競技会が平成12年10月8日(日)武庫ノ台ゴルフコースにて開催されました。

当日は爽やかな風の中、昭和21年卒の藤本一夫氏を筆頭に、合計24名(うちシニアの部2名)が競技に汗を流しました。

結果は次の通りです。

(一般の部)

優勝 芦谷 正裕 (昭37年卒)

2位 大澤 靖治 (昭44年卒)

3位 井上 幸美 (昭34年卒)

(シニアの部)

優勝 松室 憲尚 (昭33年卒)

2位 藤本 一夫 (昭21年卒)

《第75回競技会のご案内》

平成13年5月27日(日)
於 武庫ノ台ゴルフコース
多数のご参加をお待ちしております。

《連絡先》

関西電力 八木 誠(昭47年卒)
西 順也(平6年卒)
06・7501・0345
西 順也(平6年卒) 記

東京支部平成12年度講演会報告
「21世紀、日本新生に向けて」

洛友会東京支部では、平成12年度講演会として、我々京都大学の大先輩であるアサヒビール相談役名誉会長 樋口 廣太郎氏を、お招きし、9月6日(水)、16時より東京丸の内銀行倶楽部で開催しました。

今回は、独立した講演会としては、東京支部初めての試みでしたが、会場をほぼ埋め尽くす160余名の参加を得、改めて人々の関心の高さを示しました。また経済学部の同窓会の方々と東京支部メンバーのご友人の参加もいただきました。

開会に際し、川本支部長より挨拶が行われ、樋口 廣太郎氏の略歴の紹介、本講演会参加への感謝、また今後の洛友会活動への支援をお願いなどが述べられました。続いて樋口氏より1時間半に亘



り講演が行われました。樋口氏は、大変わかりやすい言葉で、我々この10年で日本はなぜだめになっていったのか? ならば21世紀に日本を良くして行くために何が必要なのか? そして、良くするための具体的な提言の数々を、「民」の立場から明快にまた忌憚無くお示しいただきました。最後には、これからも規制緩和が非常に重要であり、これを進めるためには私たちの考え方を変えて行く必要があると締めくくられました。
17時50分より懇親会に移りました。再度川本支部長よりお言葉をいただいた後、廣前支部長より乾杯の御発声をいただき、一同アサヒスーパードライで乾杯。その後樋口様を囲み談笑の時間を過ごしました。樋口様も多忙ながらできる限りの時間を割いて我々におつ

きあい下さいました。
最後に池上副会長より締めのご挨拶を頂戴しました。

末筆になりますが、本講演会に際し、薄謝ながら快くご講演をお願い受け下さいました樋口様に厚く御礼申し上げます。また事務連絡などで大変お世話になりましたアサヒビール秘書室、福岡様に御礼申し上げます。樋口様ご紹介には藤江幹事(昭37年卒)に労をお取りいただきました。ここに感謝します。最後に受付業務に多大なご尽力を賜りました日立テレコムテクノロジの皆様方に厚く御礼申し上げます。

なお講演資料の残部が僅少ございますので、実費(1000円、送料込み)でおわけします。必要の方は幹事までメールでお申し付け下さい。

なお講演の詳細内容、樋口氏のプロフィール、講演会アンケート結果をhttp://www.rkyukai.org中のH12行事予定、報告欄に掲載しておりますので、ご参照下さい。

また洛友会東京支部の各種連絡・案内をメールにて配信しております。未配信の方で配信を希望される方は、

ohashi@kddlabs.co.jp(平)へ連絡をお願いいたします。

大橋 正良(昭56年卒) 記

事務局だより

◎役員会開催のお知らせ

平成12年度の役員会は左記のとおり開催いたします。

日時 平成13年2月3日(土)
午後2時30分より
場所 京都タワーホテル会議室

◎年会費納付のお願い
平成12年度も残り少なくなりました。昨年12月初旬での納付率は約44%と例年どおり低迷しております。

◎会員名簿の発行のお知らせ
平成13年秋には会員名簿の改訂を予定しています。

会員の皆様には新年早々何かとご多忙のことと思いますが、本年度分会費未納のお方は会報同封の振込み用紙にてご協力をお願い申し上げます。

会員の皆様には異動事項がある方は、名簿の「綴込みハガキ」に変更事項をご記入の上、事務局までお知らせ願います。

編集後記

新年お目出度うございます。21世紀の幕開けに当り会員ご一同様の御健康と御多幸をお祈り申し上げます。

20世紀における科学技術のめざましい発達は世の中のあらゆるものが一変し、我々の日常生活が向上しました。これからの21世紀には更にもっと進化し、利便性が得られるのか、想像もつきません。
昨年は一部IT関連業種の活況と輸出の好調に支えられ、やや明るさが見えたが企業格差は広がるばかりで、景気回復の満足感のないまま年が改まり、早くも本半年には経済成長率が減速するような予測が点滅しています。
持ち前の知恵と技術で乗り切りたいものです。 松本 博 記

訃報

講大14	大槻敏夫	12	9	14
講昭4	清水明義	12	11	
昭7	永田良孝	12	12	15
講昭10	藤原誠一	12	11	8
講昭11	佐藤一二	12	8	
講昭11	藤村俊一	12	12	7
昭13	國富佳寿郎	12	7	10
昭13	原 武彦	12	10	3
講昭13	市川亀久弥	12	8	25
昭15	大隈辰生	8		
昭19	金田 弘	12	5	26
昭19	長谷川治郎	12	5	18
昭22	辻 宏一郎	12	9	15
昭27	野田清四郎	12	8	13
昭29	加納 顕一	6	6	28
昭35	押山 宏	12	9	13
修昭46	山田輝彦	11	9	8

以上の方々がご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。